

フォルクスワーゲン・ゴルフ50周年記念展示 supported by フォルクスワーゲン・ジャパン

トレンドセッター、グローバルスタンダードとして半世紀

ピープルズカーブランド、フォルクスワーゲンがビートルに代わる小型実用車としてデビューさせ、世界の自動車シーンを一変させたゴルフが誕生して今年で50年。それを記念して、トレンドセッターであり、なおかつベンチマークでもあり続ける歴代ゴルフの中から5台をチョイス。自動車史を変えるマイルストーンの偉大な魅力を浮き彫りにする展示です。

※展示車は、写真と異なります

初代 ゴルフE (1980)



横置き4気筒FWD、イタルデザイン・ジウジアーロによるボクシーなハッチバックボディと優秀なパッケージング能力、そしてキビキビした運動性能で、1974年に発売されるやたちまち大人気を博した初代ゴルフ。革新的でスタイリッシュ、洗練されたコンパクトカーとしての地歩をたちまち築きあげた。

2代目 ゴルフGTI (1990)

スポーツカーに代わる存在として当時持て囃されたのがいわゆる“ホットハッチ”。高い実用性を誇るハッチバックボディはそのままに、エンジンチューンとサスペンションを軽く強化するだけで“fun to drive”を実現したものだ。その火つけ役を担ったのもゴルフGTI。日本市場への正規輸入はこの1983年デビューの2代目ゴルフGTIから始まった。



4代目 ゴルフR32 (2004)

完成度の高い実用車であるゴルフの質感を飛躍的に高めたのが1997年に市場投入された4代目だった。エンジンバリエーションも豊富になり、3.2ℓ V6エンジンにハルデックス・カップリング式フルタイム4WDを採用する最高級グレード、R32もラインナップに加わった。性能、実用性、品質の高さだけでなく、情緒にも深く訴えるゴルフとして深く心に刻まれる存在だ。



7代目 ゴルフTSIトレンドライン (2013)

ゴルフの上級移行は2012年に登場した7代目も不変だった。パワーユニットもVWが先鞭をつけたダウンサイズターボ化を推進。1.2ℓ 4気筒直噴ガソリンターボや気筒休止つき1.4ℓ 直噴ガソリンターボを主役に据え、世界の技術トレンドを牽引し続けた。新世代モジュラープラットフォーム「MQB」を採用したことで軽量高剛性を図るとともに、衝突被害軽減ブレーキやアクティブクルーズコントロール等、運転支援機能を充実させ、コンパクトカーの安全性の基準を飛躍的に向上させたことも特徴のひとつである。



8代目(現行型) ゴルフTDI Rライン



ゴルフのスタイリングを決定づける太く特徴的なCピラーのデザインを大切に守りながら、プラットフォームを「MQB evo」と呼ばれる進化型に変更し、精悍なフロントマスクを与えたのが現行型ゴルフの特徴だ。エンジンはeTSIと呼ばれる48Vマイルドハイブリッドシステムを装備した1ℓ 3気筒直噴ターボ、1.5ℓ 4気筒直噴ターボを中心に、直噴ディーゼルトーボも用意する等広範な守備範囲を誇る。